

# 1 初期神戸女学院

現在、神戸女学院で開講されている自校史教育科目に初期神戸女学院がある。全学オープン科目として開講されているこの科目は、1997年度に複数の担当者によるリレー形式の授業として始められた。神戸女学院独自の内容を盛り込んで行なわれているこの科目について見ていきたい。

## (1) 大学論

古いシラバスや便覧を調べるうちに、この科目以前に自校史教育科目と呼べる科目が存在していたことがわかった。そこで「初期神戸女学院」の前身ともいうべき科目「大学論」から話を始めたい。

大学論は1976年、当時学長であった教育学専門の教授担当の科目として開講された教育学系の科目であった。シラバスによると、1年生を対象として「大学とは何か」ということを歴史的、社会学的観点から明らかにし、ヨーロッパにおける大学の成立、欧米の大学と日本の大学、現代社会と大学の大衆化等の問題を逐次取り上げることを通して今日の大学と大学生活の在り方を考える、というものであった。1976年という年は『神戸女学院百年史』の通史編である総説が刊行された年であり、先生はこの時、百年史の論文編である各論の原稿を執筆中で、通史編で明らかとなった神戸女学院の高等教育への歩みと、ご自身の論考を念頭に授業を組み立てられたことは想像に難くない。総説刊行から5年後の1981年に刊行された各論には先生の論文「近代日本の女子教育と神戸女学院」が212ページにわたって掲載されており、1982年に百年史総説と各論は抜粋版が作られた。そして1982年度、『神戸女学院百年史(抄)』がテキストとして指定された。自校史教育の始まりである。1989年度からは対象が2年生に変わり、リベラルアーツ教育の人間形成的意味について考えたい、とさらに一歩踏み込んだ内容説明が加わっている。一学校史としてだけではなく、世界的教育学的視野からの授業といえる。先生は1977年に神戸女学院院長に就任、

1988年まで3期にわたってその重責を担われた。また、1983年から1986年まで神戸女学院大学長も兼任された。大学論は開講されない年(1983年と1985年から1988年まで)もあったが、それはこの兼任の時期に重なる。

先生は1992年に退職されたので、大学論は一時開講されなくなったが、1994年度から講師を変更して再開することになった。この年から史料室担当者が授業を担当したので、内容はより学院史に密着したものになった。2000年度までは毎年開講していたが、その後隔年開講となり、2005年に担当者の退職を機に開講されなくなった。2007年度まで科目名は残っていたが、2008年度大学論という科目そのものがカリキュラムから消えた。

## (2) 初期神戸女学院

大学論と入れ替わるようにして1997年度から開講された科目が「初期神戸女学院」であった。この授業は複数の担当者によるリレー形式の授業で、一般教養の文化史系の科目として開講され、1年生が対象とされた。1999年度からは全学部共通の共通科目(主題コース)に、2020年度からは全学オープン科目というカテゴリーに位置づけられ、現在に至っている。

この授業は大学論よりもさらに神戸女学院の歴史と教育に焦点を当て、神戸女学院における独自の教育と学院の持つ特色を学生たちにわかってもらおうと始められたものである。背景には大学における中高部出身者の減少があると思われる。神戸女学院は中高大10年一貫教育を掲げているが、近年、下からの進学者は激減している。基本のコンセプトは近代日本の女子教育の草分けとなったいくつかのミッションスクールのうち関西最古の伝統を持つ神戸女学院の原点を探る、というものである。本学の教育の特色である英語教育、音楽教育、建学理念であるキリスト教、そしてこれらの教育を受けた卒業生について講義する。2010年度からは同窓会館(めぐみ会館)訪問、2015年度からはリベラルアーツ教育としての体育教育と理化学教育が加わった。また、2015年にはより授業の内容を理解しやすくするため教科書となる本『山本通時代の神戸女学院黎明期の女子教育とその歩み』が刊行された。

授業の特徴は現物を用いるという点である。普段図書館の書庫に収蔵されて

いる特殊資料が展示されたり、讃美歌や貴重なオルガン(2010年に復元された1860年代製のリードオルガン)やピアノ(1992年に修復された1860年製スクエアピアノ)の実演があったりするのはその一例である。また、授業に合わせて教室移動も行なわれる。同窓会館訪問は学生にとって貴重な体験といえる。神戸女学院の同窓会(公益社団法人神戸女学院めぐみ会)は法人格を持つ独立した団体であるが、岡田山キャンパス内に会館を持ち、物心両面から学院を支えている。やがてその一員となる学生が卒業生とじかに交わり、同窓会の活動の一端に触れるということは、自校史教育にとって大きな意味がある。

現物を用いることを特色としていた授業ではあったが、2020年、世界に猛威を振るった新型コロナウイルス感染症の影響を受け、全授業がオンライン化したことに伴ない、初期神戸女学院も配信による授業となり、実演、訪問は行なわれなくなった。徐々に制限が緩和されてきたとはいえ1年生対象の大教室での講義であったため、2022年度現在までオンラインによる配信が続いている。(この原稿は2010年に熊本大学で開催された全国大学史資料協議会全国研究会において行なった研究報告を基に作成した。)

### 参考資料

神戸女学院大学学修便覧

『研究叢書第12号 大学史編纂・史料保存と自校史教育—2010年度全国研究会の記録於：熊本大学—』(全国大学史資料協議会、2011年)

## 大学論(1976-2007)

年度	担当者	シラバス	備考
1976	岡本	主に1年生を対象として、「大学とは何か」ということを歴史的、社会学的観点から明らかにしたい。ヨーロッパにおける大学の成立、欧米の大学と日本の大学、現代社会と大学の大衆化等の問題を逐次とりあげることを通じて今日の大学と大学生活の在り方を考えようと思う。	前期のみ開講、1年生対象
1977	岡本	同上	
1978	岡本	同上	
1979	岡本	同上	
1980	岡本	同上	半期2回開講
1981	岡本	同上	
1982	岡本	同上。テキストとして『神戸女学院百年史』(抄)を使用する。	
1983			開講せず
1984	岡本	同上。テキストとして『神戸女学院百年史』(抄)及び他のテキストを使用する。	通年開講
1985			開講せず
1986			開講せず
1987			開講せず
1988			開講せず
1989	岡本	「大学とは何か」ということを、歴史的、理念的観点から明らかにしたい。特に英米の大学におけるリベラルアーツ教育の人間形成的意味について考えたい。テキスト『神戸女学院百年史 各論(抄)』。	2年生対象になる
1990	岡本	同上	
1991	岡本	同上	
1992			開講せず
1993			開講せず
1994	若山	神戸女学院は我が国において女子高等教育を手がけた最古の学校の一つである。我々の母校となるこの学院の来歴をたどることにより、女子教育・高等教育・大学教育のあり方について考察し、さらに(時間の許す限り)、この学院の創立者たちの母国アメリカの女子大学の起源やヨーロッパにおける大学の発祥をも視野に入れることにより、上の考察に歴史的色彩を加味すべく心がけたい。参考文献:『神戸女学院百年史』総論、各論。	担当者変更
1995	若山	同上	
1996	若山	同上	
1997	若山	前期:「Collegeを創ったLadies—近代日本女子高等教育の黎明」今からおよそ120年前に神戸に興った小さな女学校は、封建遺制と国家主義的風土の中で、他に先駆けて、どのようにして女子の最高学府となったか。後期:「Kobe Collegeのルーツ探訪。そして『大学』にまつわる若干の考察」日本の教育史上最も早い時期に女子のための高等教育を実現したKobe College示唆を与えたものとその特質について紹介し、また、Liberal Arts Education, CollegeとUniversityの定義、大学「教育」の意味するもの…等々について考えてみたい。	前後期開講
1998	若山	同上	
1999	若山	大学で学ぶとはどういうことか、大学とはどういうものか…について、最も身近ながら古来(創立以来)日本の女子教育史上最も注目すべき歴史を築いた一つの女子校・神戸女学院の歩みをたどり、またそのルーツを探ることで、高等教育の在り様を考察する。前期:近代日本における女子高等教育の先駆けとなった神戸女学院の大学への歩みを、日本と世界の歴史の流れとの関わりにおいて見る。スライド併用。後期:神戸女学院の女子高等教育に示唆を与え、またそのモデルとなったアメリカの女子大学、ひいては近代アメリカの大学教育、またそのルーツをたどってヨーロッパの大学発祥の様子をたずね、ひるがえって、大学というものの伝統と現実について考える。	共通科目・入門コースになる
2000	若山	同上	
2001			開講せず
2002	若山	同上	
2003			開講せず
2004	若山	同上	
2005			開講せず
2006			開講せず
2007			開講せず

初期神戸女学院(1997-2022)

(1)

年度	担当者	シラバス	授業回数	備考
1997	原田(英語)、若山(歴史)、中永(卒業生)、茂(基督教)	後期4人の担当者により、リレー形式で行なう。原田:「神戸女学院の初期50年における英語教育」神戸女学院創立間もない頃から、「女学院の卒業生、学生は英語がよくできる」と一般に言われてきた。このような評価を得た「英語力」は、学院の、どのような英語教育がもたらしたものであろうか。初期の学院における英語指導に関して残されている資料は、ほとんど無いが、「神戸女学院史」の記録からひらって、これを検討していく。若山:スライド公演「神戸女学院120年の歩み」と、出来れば小さなワークショップ。日本近代史上における「ミッションスクール神戸女学院」の成り立ちと意義について、5代70年にわたりミッションナリー院長によって守り継がれた建学の精神を踏まえての考察の紹介。中永:様々な分野に生きた初期卒業生たちの活動・思想・人生などを時代の雰囲気の中で掘り起こすことにより、神戸女学院のめざした教育を近代日本史の中に位置づける。茂:神戸女学院創立期に用いられていた「賛美歌」を見ながら、その賛美歌がその後どのように展開されたかを説明したい。	12	文化・文化論の 카테고리として後期開講。シラバスに各授業の内容詳細有(2002年度まで)。丸かっこ内担当分野。
1998	原田、若山、中永、茂	同上	13	前・後期開講になる(2005年度まで)。
1999	原田、若山、中永、茂	同上。原田:「明治・大正・昭和における神戸女学院の英語教育」。中永:日本の近代化過程におけるキリスト教および女性の問題を視野に入れつつ、明治大正期の神戸女学院の卒業生をとりあげ、神戸女学院のめざした教育について考察する。若山:近代日本の女子教育の草分けとなったいくつかのミッションスクールのうち、関西最古の伝統を持つ神戸女学院の原点を探る。65年に及ぶ「生粋の」ミッションスクールの歴史の意味を喚起したい。	13	以降シラバスの変更部分のみ記載。文学部・音楽学部・人間科学部主題コースというカテゴリーになる。
2000	原田、若山、中永、茂	同上	13	
2001	原田、若山、中永、茂	同上。茂:神戸女学院にある、明治初期讃美歌集のコレクション(オルチンコレクション)を説明し、解説し、その音楽を聞いてみる。	13	以降教室移動、生演奏有。
2002	原田、中永、若山、(茂)	同上。原田:「明治・大正・昭和初期における神戸女学院の英語教育」。中永:近代日本の歴史の中で、初期神戸女学院の卒業生たちの生涯を追う。	13	特別講演3回(やまカッコ内特別講演者)、ビデオ視聴有。
2003	原田、飯(基督教)、中永、若山、(茂、竹中(基督教))	概要:近代日本の女子教育の草分けとなったいくつかのミッションスクールのうち関西最古の伝統を持つ神戸女学院の原点を探る。	13	特別講演2回。
2004	原田、飯、中永、若山、(茂、竹中)	同上	13	特別講演2回。
2005	原田、飯、中永、津上(音楽)、(茂、竹中)[佐伯(歴史)]	同上	13	授業内容詳細不明(亀甲カッコ内職員)。
2006	原田、飯、中永、津上、(茂、竹中)[佐伯]	同上	13	以降半期のみ開講。
2007	原田、飯、中永、津上、[佐伯]	同上	13	以降スクエアピアノ生演奏有。
2008	原田、飯、津上、[佐伯(歴史、卒業生)]	概要:近代日本における女子教育の草分けとなったいくつかの学校の中でも関西最古の伝統をもつ神戸女学院の原点を学ぶ。	13/15(休講、予備日有)	

(2)

年度	担当者	シラバス	授業回数	備考
2009	飯、原田、津上、中永、〔佐伯〕	概要：近代日本における女子教育の草分けとなったいくつかのミッションスクールのうち関西最古の伝統を持つ神戸女学院の原点を創立者である宣教師とそのルーツ、学院全体の歩み、英語教育、音楽教育、初期の卒業生という小テーマでリレー式の講義・授業。	14/15(予備日有)	アンダーラインはコーディネーター(1997~2008年度確認できず)。
2010	原田、飯、津上、〔佐伯〕	目的：キリスト教主義のミッション・スクールから始まった神戸女学院大学の教育機関としてのミッション、教育の精神とそのルーツを学ぶ。特に、その教育内容としては、明治、大正時代における英語教育と音楽教育を取り上げる。加えて、初期の卒業生の活躍について知る。概要：同上	同上	以降授業の目的の記載有。以降リードオルガン演奏、同窓会館訪問有。共通科目(主題コース)というカテゴリーになる。
2011	津上、飯、原田、〔佐伯〕	目的：キリスト教主義のミッション・スクールから始まった神戸女学院大学の教育機関としてのミッション、教育の精神とそのルーツを学ぶ。特に、その教育内容としては、明治、大正時代における英語教育と音楽教育を取り上げる。概要：同上	13/14(予備日有)	
2012	津上、飯、原田、〔佐伯〕	同上	14/15(予備日有)	
2013	津上、飯、原田、〔佐伯〕	同上	同上	
2014	津上、飯、原田、〔佐伯〕	同上	15	
2015	津上、飯、白井(英語)、井上(体育)、〔佐伯〕	目的：キリスト教主義のミッション・スクールから始まった神戸女学院大学の教育機関としてのミッション、教育の精神とそのルーツを学ぶ。特に、その教育内容としては、明治、大正時代における英語教育と音楽教育および体育教育を取り上げる。概要：近代日本の女子教育の草分けとなったいくつかのミッションスクールのうち関西最古の伝統を持つ神戸女学院の原点を創立者である宣教師とそのルーツ、学院全体の歩み、英語教育、音楽教育、体育教育、初期の卒業生という小テーマでリレー式の講義・授業。	15	以降体育教育のトピックが加わる。
2016	津上、飯、白井、井上、〔佐伯(歴史、理化学、卒業生)〕	同上	15	以降理化学教育のトピックが加わる。
2017	津上、飯、白井、井上、〔佐伯〕	同上	15	
2018	津上、飯、白井、井上、〔佐伯〕	同上	15	
2019	津上、飯、白井、井上、〔佐伯〕	同上	15	
2020	津上、飯、白井、井上、〔佐伯〕	同上	13	新型コロナウイルス感染症の影響で急遽オンライン授業(全13回)となる。全学オープン科目というカテゴリーになる。
2021	津上、飯、白井、井上、〔佐伯〕	同上	15	以後オンライン授業。
2022	津上、飯、白井、井上、〔佐伯〕	同上	15	